傳法門

下

曽
775
268

曽門
巻 775
番 268

大和俗訓巻之六

躬行上

京都帝国大学図書之印

善とこのゝ悪ときらふ事の誠なるハ大学の誠意の事少く為成ハ
道とおこなふ初め善を好ゝ悪をきらふ行れハ道の行るゝやうなれ
学者の最初より先心を正き事ハ是より急なるハ無し善を好し
事ハ人ハ生れつきとこのむ所にて悪を憎ふものあり生来成
きらふ所にて色深ふこの心ふかく法人のきらふ多れ
と悪ほしいまゝ成ものこのむ多れと好をふるまひ
作り是皆人の生来ふこのきらふ所作ハ善とこの悪をきら
ひ生来ふ所生来実作ハ善を深ふ好く人ごとに生来
ハ人の内ふ生ふ吾知成ふ所ふこのきらふ実分すして
善と知て悪成ふ所ふ是と自歌云自歌とハ家ふ人の内

京都帝国大学図書之印

実行をこそ君子は好み要とされ深く信ぜられ孔子の教の
されつゝ学ぶべき道理の人々は枝葉の根を捨て
義理を専に基礎を立て行のみを道とし
こゝろを尽し誠を以て千万人
力行の道は其大綱は勇を以て五倫を厚くし
百行を修し身を治め人を治れば人倫の百行を
ひろ係員は言を忠信にし行を篤くし
懲忿窒欲善を勇に改め
やはり言てすべた為ふ所の其人に対して百と行べ
人をさらに成して行はるる事あるべし人をせめずして自ら
ふるべく家内のいさかひなるべし
凡人の勇はさまざまに使べくして言行の二ツ
つゝして行を慎べく篤く慎む為の故小言行をつ
使しく篤くして勇を以おさむるの為
言行をとゝのへ人の為のわざとなる視聽言動也
皆人きたの実行を法あり是を禮と
言動をなすべきの礼儀也
禮は人の工のすゝめのやしすみを用ひられ材木あれ
用ふる礼と用ひられ礼を動皆道ふ礼を
の人を示は法を以て規礼を人
めを以て則なり君子常小禮を
法をもつて君子と小人の口
視聽言動は人の為の口のとなり思ふ人の動して其実
のぬし思を慎ふ人の思を慎の為

君臣の分に其人の義と利とのうちにて義とは我分を忘れ公の理（フヤウ）
私なくして我分を忘れ君を思ひ家を為めにする心義なり利
とは我身をあなたにする私の心にて公儀を忘れ己れ
の為にする不義なり不義とは天下の義を害する人にして其分
の中者にて其人義なきゆへ家を為に利をのみ
ものを心私にて君を欺き家を滅ぼすもの
なり者にて真実忠臣にして我身をかへりみず義に正し
き者にて其人をもとめて使ひ用ひ君の忠臣と成人あ
ひ成ものなり義とは心私なく公平
つき筋をもつて家を為に利の為にする私心なくして義
に従ひ人をもつて家を為に利を求すして
自身の為利は義に害なり利と称するは義に害ありたとへは

天下に生こゝろの善を行ひ人も為のあひする心あるは利
義にあらず義と利とをもつて中庸一法とむへきの術なり
善を行ふとは天性に生れ付る仁義禮智孝弟
忠信慈愛恭敬温和辞讓剛勇廉恥を行ふ道にて中に道
て行ふを云ふなり此善を行ひ人も名利を求ふ心にて行
ふは誠の善にあらず善を行ふは必ず一筋に義理に当て
名利の為に行ふ

人の行業中に法さく悪とあり悪とは不要なれ
ども行て法に成ず成ん法にて法にすて法にすちふを悪とは善悪は
知なり然に法にたるを云ふ自然（おのづから）為をおこなふ
ものを悪とあり善とて善に成ん法にあらず善人は悪
行に成ん法にあらず時化人は悪なり何て今の学

過ちなき人あらんや人のいまだとゝまらざるに過あれば
ちゝ過ちなきゝ人ハ可也自修ハ小志ありて若自修ハ人ハ
己をきらひ己ハ自有ゝ過ちなきゝ人の法と少て我ら己
我あらゝ者免ゝ小ちゝ人

常小我身と有て先我ら過ちなきゝ人ハ速小改て
尚書小過ちなく各修すゝ人ハ過ちあり由
すゝて早改と云孔子も過而則改小ちなるゝ人ハ我のゝまゝ
我身の己我ちゝ人ハ愚也己我ちゝて改ちゝ人ハ聖人ちゝ人
己ちゝ人ハ其法ゝ

過

公私貨の偏ちゝ人ハ人ちゝ人ハ過ちゝ柔
修ちゝ人ハ人ちゝ人ハ不ちゝ己ハ不ちゝ己ハ不ちゝ己ハ
ちゝ人ハ人ちゝ人ハ学者常小我私貨の偏ちゝ其過を省

て改て常ちゝ人ハ学問の無ゝ己学者の志ちゝ人ハ
不ちゝ己ハ不貨ハ偏小ちゝ己及ハ不貨の偏ちゝ不小ハ
ちゝ己ハ常小法ゝ十ちゝの力を用ゆゝ

我身聖人ちゝ人ハ己をきハ人ちゝ人ハ己ちゝ己我ちゝ己ハ改ちゝ
人ハ常ハ己ハ小志ハ人ハ己自暴自棄と云ゝ人ハ己ちゝの志ハ
己人ハ小ちゝ己ハ人ハ己ちゝ己ハ人ハ己ちゝ己ハ人ハ己

[illegible]

論語小君子のあやまちハ日月の食のごとしあやまちてハ人皆見るごとく
改(アラタ)むれハ人皆仰ぐごとしと君子の心ハ天白日のごとく酒落
小にて一点のおゝひなし故小あやまちをおかすことなしとく
なく汝ハ日食月食とハ天下の人誰あきらかに見
ざるものなしたゞそのごとく明らかなれハ日月の光照
ずしゝ式ハ君子のごとくなるハ日月の光照
いて小人ハ成和ゝかさり其過ておのゝ成せハ正直の
理を失ひ邪ゝ[illegible]ものとなりて[illegible]
るゝ邪小人の心のごとくいやしと云て尚書小過を和く
非を成ハ半分ハ[illegible]賢人すくるあり況凡人をや
過ゝ[illegible]ハ君子ゝ[illegible]
人皆ゝ[illegible]ハ[illegible]人皆見るごとく行て一人の不

若しとくハ我も亦然ふ若ハ行りやすし為て若あるハ
以て如くされて見きすり不の人の若悪若我り卵しなる老子の
若人ハ不若人の師不若人ハ若人の資しいて其意なり
古の賢者ハ我過を少事とのうの人の諫とすこと聞て過
と改ることハ乃小さむ事ハ大行ハ為し一又古の賢者ハ人ハ参ることを為ること若我
大行ハ為し一又古の賢者ハ人ハ参ることを為ること若我
少事と云好善者ハ我きて益ハ我のこと為ること若せも善に
ハ人ハ我て善と為ること半小善ハ大なる害也今の人ハ口を以て少
事とこの両人の我と参と為ハ我善ハ我好世小つ人の
小人今き取参多し一されと為て人ハ人ハ自ハ為て若
と為ふおこしハ為ハ人ハ庚也ハ人ハ庚也ハ人の涙
とこのまた故小人ハ涙ハ世なれ如くされ人と為り

父ハ老て子ハ涙ハ我父ハ老老せりと云ハ光人今の風と為て
てこそ為ることを為ることを為て若ハ我父ハ為ることを
いう遠く為て人ハ人に世の俗小為れ人の欲ハ為ることを為
ハ遠く為ハ人ハ人に世の俗小為れ人の欲ハ為ることを為
悪ハ日ふ為ん人ハ朱く道行りて人ハ為れ日一おそ涙と
云人有て一日ハ為ふ為ハ為ハ涙ハ為ハ人ハ為ハ為ハ故小涙ハ人ハ為
人小財て道と為ふ小人家小道ハ為ハ人と世ハ為ハ性ハ為ハ為ハ立
人て求ハ一見と自及と云世上ハ財ハ為ハ人と見ハ為て人我
と為ハ為ハ我見ハ為ハ為ハ為

[illegible]に誠あれば人そむく人理なれば安人形り禽獣ちかき人
なれば其人と色化を申べしと云へり

中庸曰言顧行行顧言と意は言と行と相違なく言は先に
小我が身の行をかへりみて言を顧て行ふ
べし言未だ行はざるに行ふべし故に君子は言を
忠実にして言と行と相違なく言あまり行なく
其行ふるを先にして言行のそむかざるなり

君子は忠を常とす大小にかゝはらず若小なれば
忠小なれば忠大なり

古語に忠臣は二君に仕へず烈女は両夫にあはず君子の
節義とは信の君に仕へ婦の夫に
仕へる人の節義は二つなく二君に仕へず烈女は
両夫なき節義なり我身親族にかゝはらず君に忠
を決めさせる節義と云ふべし

[illegible]人の節義と云ふべし

[illegible]て人に逆て其所を[illegible]ふべし節義を失ひ
有[illegible]に仕へ言ある方法の[illegible]成敗如何に[illegible]は二生の
名誉なれば[illegible]なれば悪名を[illegible]人生の
興[illegible]我身を[illegible]ふべし死後は名悪の名を[illegible]我身は何な
るものぞ[illegible]生る[illegible]の世[illegible]死[illegible]節義を失
ひ[illegible]命を[illegible]百年の[illegible]を[illegible]留べき
[illegible]人の道を失ひ[illegible]世に[illegible]れば行の学問[illegible]

ひとんや色人分つとめ行ふこと大節也

凡人の法とめ行ふこと有り預ふ所を示こと一小ハ稼業二ゆる
書生こよハ行義なり稼業と ハ四民共其家のつき法作也る
也士ハ君よりうけ農工商こ各其家業をつとめ其家食と求る
と云家業こ稼されハ飢寒貧窮法なれ法民の先稼
つきるゆふ敗祿あんなと称ふ慮く稼業こハ衣食こ居
慮こ行く身こ為こ生計ハ其間小あり二小ハ書生ハ欲
合交慾七情の内欲こ主くく起居動静の形容成慎風を
暑濕外邪こ犯生命こ害ひく病れく長寿こ為事
成ふこと生成書されハ必病せして身こ若め又生ける
天年こたりちく色又人のよく稼こ事也こ小ハ行義ハ
為成修めく人倫の法成厚く行ひ成ふれ成形を

云義こ行こされハ人成法先ふ稼業て富夫小居り生こ書
て生成行くこと人の成なんハ倉敷小ちくしていきるれ
古の聖人れこ為こ師こ立学成こ人倫の道こ教
義こ為こ師の内稼業より書生ハ知りく書
生より行義ハ知りいんこ稼こハ稼業ハ富夫こきこ為こ
宗子國土こ頒一富法の行ハ富夫の極こ生れこ寿命
れけれハ富夫こ用ゆ一唯今人のて他ハ國土こ四つ生こ
位こ為こ一能こハ他こ命こ為ふ所こ行こハ生て欲
小れ思行こ人命成失成ひく國土こ位こ為こ人こ為こ
こ成法こ富夫より教ハ知れ小あこ為や故日稼業より書
生ハ生一又君父師こあ小教こ為こハ生こ及す朋友こ立
て成法ふ為むこひこ人命て明友こ信一書こ

士たるの志ハ其友とするに足る人あるべし学問無
き輩とハ交るべからず孟子ハ下知の主人
のあるハ命とするハ人のつとめなり此ハ生命より義理ハ重
所なり此世ハ天下の人生れ出て各其分に応ずる所ハ
て又行ふべき当然の理なり此ハ人倫の道
なる事なり義理の生命より尚大切なる事
大なる事也と心得べし義理と云ハ理
を重んじて利欲ハ軽しと共ハ人倫の
此乃人賊源なり此ハ学問を好ハ家業に
怠り学問を好ハ君を好ハ君を好ハ君
くなるもの義理と学問とハ
とつとむべし義理と学問

忠と報ずる人道の大節と禽獣ハ忠と恩とを以人を守る
ものなり禽獣よりも人倫を尊ぶ
すべき人倫の大節なり
なり敬せざるべからざるに同し恩を報ずるハ深
人ハ四恩あり天地の恩父母の恩主君の恩師恩なり
ら天地父母の父母父母の父母ハ帰て我の身也人ハ我の身
生る又しかれども後ハ天地の恩ハ
廣大にして元和一体にして其恩彼ハ
ひくしてしかるに是天地と我人倫
すべき行ひ天地の恩ハ小なるものハ人倫の第一
相成ものなり其恩彼ハ
人倫に失ハ天地の恩ハ

万の人とあつく恵し次は方相氏也しかふ其人不ふさとひて
人倫と厚く恵し次小者獸以下の形物氏也してたこれを
さう也天地の造んりさうこと帰也にたりにと仏ふて化り
化人をりて其大恵の第一と称ふ仏りて化り人の父母なり
人ハ天地の子也ハ是て化ふ化人の寿の道と人とする恵乃
生化をあ仏ふ化さ化也ようハ人ハく也ようハ恵なる陰
人と仏ふ恵ふ生ん人あり人へ化ふ物をく仏ふ人ふ
家の人ふ生ん生あ生ん生と

父母紙とうるとい人と其生とうるて初ハ天地乃恵とうて生
仏也天地ハ生の本なり其人ひもれて後ハ化ふ物恵ふ
仏ふく天地の恵と交て化の生ふ物と合ふ衣ふ衣ふ
番ふして為と名天地の性と父五常ハ徳と仏ふ也ハ仏て

形物の業と仏りて化の用ふすみく化の厚めるこをとく生
仏交ふ初ふ為とおるこ天地の恵仏ふ仏ふ物のこかる
仏大恵仏ふ物仏生ふて身とおるて天地ふ仏ふ
孝と仏ふ人其充ふ徳と仏ん半仏思ハ一も人倫の一大ふ
故小者ひくふるこ人て仏ふ

父母ハ恩と充半天地ふひく父母ハ人行て仏也あん其恵海
ふ仏ふ高ふ海山ハ浪ふあり父母のめくみハ仏ふ
人ふて仏其恵仏ん父母と孝と仏ひく其恵の百一と仏ふ
仏ふ父母ふ仏ふく其為と仏ふ一可也ふ分と仏為ふ財と
の為と云為の仏ふと仏ふくふて仏ふ財の為浪と仏ふくふく
恵ふ其ふ仏ふと仏ふ也ふ若ふ仏ハ紙ふ人ふ父母の恵仏ふ
仏力と仏ふく仏ふて不孝と仏ひ父母ふて浪仏ふれも

益孔子生一生の活ける人の子なり其後悔なく
人なるべし父母のいきる時にして孝行なし一日
も孝行なるべしてはたらるべし父母よりたる年は
父母なくして孝子は日なしといふ事なかるべし
父母なくしてもしいかなる君の恵あるまれは我身不立君の御恩
受て家を身と云の心なるべし父母妻子と云べし奴婢とつ
ひ衣服居宅器財等の用をもつて安楽に世をすごす
るの御恩君の世渡りのなり也父母よりひ其恩大
なり天下の人家身を我身と我身を我身とすべし
天下をもつて我身とおもふべし論語に子曰
事父母能竭其力事君能致其身と云なり
父母に生れ君恵をこうむるとも聖人の教なれば人の道を不知
と云べし我は食なあれ衣なあるとあるべきに者如何と安心してもし人
のなれなくして禽獣にもなれば人生れるかひなし今教を受
るは聖人の恩は君父恩なり聖人は萬世の師也万世の後
まで世ふる聖人の恩は君の教なれば聖人の教を遵ひ其
道をしるべし茲聖人の恩に報する道也
凡天地父母主君聖人の恩相のがれがたきもの也
そむく人あるべからず孝行なるべし
とこそ道成学なく行ふ純のみちあるべし
今の世の道と教の師なるべし若あるは貴賤にかゝわらず一道の教と
受べき師は其恩師なり本若父ひ〻き書と讀ひ
べき師と句讀の師と云其学芸一芸術の師は不其次なり
是皆人君父聖人の恩なるべし聖人とも其若学の恩

[illegible]人の生涯小人君子安危の[illegible]人の君
と交[illegible]不[illegible]して[illegible]人[illegible]一言の信[illegible]感[illegible]一事の
志[illegible]ふ[illegible]て[illegible]人の信あ[illegible]感せす人の志[illegible]
れ[illegible]ハ[illegible]に[illegible]

司馬温公の曰人の君[illegible]小君ひ[illegible]君ハ其人必忠孝
[illegible]と[illegible]言[illegible]然[illegible]君[illegible]ハ
忠孝[illegible]君父の君と不忘[illegible]俗
君[illegible]不知ハ[illegible]小人の人[illegible]君子
[illegible]道天地[illegible]父母小孝[illegible]君小忠[illegible]
師[illegible]故舊小[illegible]
[illegible]君[illegible]人の性
[illegible]君[illegible]不忘[illegible]義[illegible]禮
[illegible]其[illegible]性[illegible]

又[illegible]才[illegible]悪人[illegible]舊君[illegible]
君[illegible]義[illegible]

古語曰施恩勿念受恵勿忘人小君[illegible]小人の君
道[illegible]小[illegible]其施[illegible]
[illegible]君[illegible]施[illegible]忘[illegible]人の恵[illegible]
[illegible]其君[illegible]人[illegible]必[illegible]小人の君
[illegible]て必[illegible]人小恵[illegible]て必[illegible]て其[illegible]求[illegible]其人
[illegible]人[illegible]生[illegible]育[illegible]其[illegible]
[illegible]大[illegible]君子[illegible]其洪恵[illegible]
人[illegible]父母[illegible]君[illegible]平[illegible]
[illegible]君[illegible]不孝[illegible]人[illegible]
の人倫の文[illegible]人[illegible]君[illegible]施[illegible]

のめくるふるくに人は若干の人あるべし皆人君子にあらざれば是を原う
者のごとく十人が九人は出来て彼と此と是なるを知らざる人の多ひ
ことを恥て義を施せるごとくなれども是を施せるごとくなれども
なほ人其是を知らずみいだして我徒とそしり他人を信ずる
らるるこゝろ是をうけて有るごとくなれども人の名を有るごとくなれども
人を教へしごとく人を信ずるごとくなれども我身の人に我身を教へ
凡そ人の施しを受ることなるごとくなれども或我と云ふすめたる是あるごとくなるく
ごとくなれども所の道義を聞て是をうけて是を或初
必舊是なるごとくなれども
なるごとくなれども凡是を示す世の凡人のなるひ
ものなるごとくなれども我ものなるごとくなれども人信ずるごとくなれども是なる
ごとくなれども是なるごとくなれども大いなるごとくなれども熟れも是を

者を受て主人を主とするごとくなれども他の家に行きて是
て食ふあるごとくなれども他の家に行きて或故
十里の道成るごとくなれども海をおよぎて帰ることあれども是を
ごとくなれども大なるごとくなれども

人倫を厚くし是を感じ故に又神を尊ぶ古人曰
民は神の主也先聖王は先民を尊ぶ後神を敬ふ
ふ人事をつくして神に助を求めるこゝろ神に有り天神
地祇人鬼の天神は天の神霊を日月星辰に有り地祇
を地に有神霊を名山大川の神社稷の神と其内に有社稷は
國土と五穀成る神と人鬼とは人死して神に成ると云ふ
此父母先祖の神あり是を祭るこゝろ王公此先祖宗廟の神に
責ふこゝろ是を祭るこゝろ恐るこゝろ愛するこゝろ又先祖に有るこゝろ

人民小功德あるに人あるに孔皆人鬼なり色の生るに
なるを紙男小童しるに神と為るに男小童生る為るに
天神地祇人鬼ともに人の信小ようして為小功つかるを為
つき神あり男小あるに人鬼ともに為る所に紙為るに
神あるに孔為に色と為るに論也推に神に推成
うけ紙男あるに孔して為るに神小つかれ匡
き神をも淫祀と云淫祀に福なく紙為るまき神を為
るをこのつるに孔るに孔も推れに利なく
利なるに福と云紙為るに神と為るに神と為るに
為るに孔神紙為るに推孔して神為小斉利なく
神罪なるに孔天子法使の為るに不の乃に孔
神ねと為るに孔為るに為に人為る推孔為り

天子神明に公にして人百のごとく昂小其罪孔をとるの罪
を孔に推に孔も久変孔るに生るに為るに必孔の孔
理に為に孔為に推に為るに為に為に為に久に為に
人に為る得に為に人に為に紙に為に為に為に為に為に
孔に為に為に為に人に為に為に為に為に為に為に為に為に
ちに孔に孔に為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に
ちに孔に為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に
為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に
為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に為に
為に為

れ我欲ふる所の人さ以上を為人こたいと在国ぬ事さあり
すちをもいと在く少共同ふく伝聞人用ひく為くまま
ほうと伝定めて十分に勝ぬ事と後定して後世伝へ
知ふ人ことに明ら軍のこと敗軍と伝聞ふ文欲分りしも也
先軍のこふ合さん大事わふ皆勇為く人ことりて事を行
り過ぎ人孔子の三軍を行ふ常の時事小のそんてそれ法と
みんてれさん去ることんたのたのしし世名
人の性りと善性と悪を生ずんとしとりれとしんも利害是悪情の
欲ふ人れく悪人生しく悪ものを行ふ故小者と生ず人常ふ生れく
悪とすもの常ふ多し我人の中をとりて共悪のもの取とりあ
去く善人の生ずる伝そ行ふ而
孟子の曰志士ハ溝壑(カウガク)ふあるふ忘れて勇士ハ其元(カウベ)をうしなふ忘れ

ふふ義ふ忘ある士ハ生ことを家為不孝すてうく溝壑ふ
知まるひく死ものとも其時とハ義ふと忘れ又義ふいさも
士ハたとひ人く敵つく我を元を失ふ時ふくるふふ義ふと忘
れすとも士ふる者ハ世語と常ふ人ふ生ることを失ふ生ことを
ふり人の命ハ生きを為ふ義ふハ又命より重ふり故ふ生死
の大本にのそんてし義ふ忘ふと言ふくまるの行のふいんや
名利好ふ財宝ハ皆ふ物の性さ為ふ生ふ生ふとしさ行ふそお
りふ義と失ふんやふ人の欲ハ富貴とさハしふりあり我れ
ふ富貴も換ふ我命ふ命ハ富貴も用ふ命ハふく
生ふ物ふ生も義ふふあるてハ命とし恒く言ふ君子ハふふ
及ふ生ふ生ふ義ふふ生ふハ是人の本ふ我ハ義ふほふ生ふ為ふ生ふ
下ふほふ人命ふ言ふ生ふ義ふと言ふ生ふ義ふと言ふ生ふ我欲ふ言ふ

ふ人を決して深小ものうたりとなり

怒つゝ慾は物に及ぶ小ものゝ中にして世学ひ中ちう
よハ者れハ怒ゝ慾小ものゝ君の字ハ心の下ハ心と書怒と慾の心
なりとそうさるゝ丑を以切ゝ心ハ竹ゝ也呉藩川ゝ恩の邦成
ハて諸也又歌小句して教ふゝくゝ十らのちゝと用ゐ中めさせ
されハ怒ゝ慾ゝ国きやすゝ怒君の変なく怒ゝ慾ゝふゝくされハ
平生の学文ゝ目小学ゝ人ゝ

人ゝ生れて人ハ小志ゝて常小ゝ人ゝ心小学りて毎日人小利益ある
者年ゝ以ゝ主君父母舅姑兄長ゝふゝくゝ家人ゝ也
ゝ者ゝ者ゝ又人ゝ人ゝ者ゝ者ゝ皆人成ゝ
ゝて以ゝ人ゝ者ゝ者ゝ本ハ必財ゝ用る本の多ゝ
人ゝ人ゝ者ゝ者ゝ財ゝ多ゝ者ゝ

無れゝ貪ゝ者小ゝ者ゝ者ハ世ゝ者ゝ其利益大ゝ者ゝ人食ゝ
ゝ者ゝ者ゝ又人成ゝ者ゝ者ゝ者ハ無ゝ者ゝ者ゝ者

人と相半ばして其功大なり世を治むるいやしきおとろへ久
しく仏教盛に半ばすたれ仏法を楽しみ人々心の内よ
り法徒を生ずるに芸術の業を今に受けれ天地もしくひあるてあ
るべきとあり其福徳子孫よりて相伝ふやはり其
例多くふるきに及ぶ者ひの者と行ふ共数ひのそむく
なあれ自然の事ひとこの人
世治平月に版の欲ひとりあるとにすると不ふ行ひ殺人と
生れ富貴なる時ひ孔子ふ是深世治のいやしき志人の及ぶ
芸術の道ふ行ふ人と相ひの中ふ世の中ふ行ふあるとや
たきいやしき芸術の及ぶ不ふ行ふと不ふ行ふ元ふ小道ひ
人ひとなりて人とあるれむとあ不ふ行ふて人ふ為なる法業
ふ富貴の人ふ行ふ深ふ不平ひ人ふ貧

困なるものとあれ不ふ行ふものを楽しみ是富貴と行ふ福徳
得ふれ富貴と行ふ人ふ平月に後の欲ふ及ぶ者ふ
ふ及ぶて不ふ行ふ者ふ欲ふ行ふ人ふ勇の禍と
也人ふ害ありて不ふ行ふあるとふ次ふ行ふて是ひとなり

後漢明帝世宗東平王其国ふ都ふ系勤あるとふ時明帝問ふ曰
家ふ在ふ何の乗ふ者ふ東平王答て申さく為吾最乗ふ
云ふ八我国ふ河ふて民の貧窮飢寒を救ひ鰥寡
孤獨と言ひ芸術ふ行ふたのふ行ふ為ふ人同の乗ふ
芸術ふ行ふの面ふ者ふ中ふ行ふ為ふ正実ふ言と行ふ志あれ
ふ是とする者ふ多く其乗ふ日ふ言と行ひてやはす其乗ふ
ふ行ふ為ふ人芸術ふ行ふ其功大ふ広くして
其乗ふ示ふ者ふ中ふ東平王の言ひ人ふ行ふれ孔子ふ是れ

紙ゝ人ゝ悔ゝ人ゝまゝ抵ゝふまゝ

尚書有備無患ゝいゝ

なゝるゝたゝあゝひゝくゝも患れゝ常ゝ紙ゝ人ゝ本の

時の用ゝあゝる故紙ゝ丘乳あゝても役あゝても患れゝ常ゝ

俟ゝて財の生ゝくゝあれゝ徐ゝ変ゝあゝても困窮ゝ

其後の法ゝ当ゝくゝのゝ当時の費ゝとゝぶゝ私欲ゝとゝゝ

後の用ゝとゝとゝくゝ常の時ゝ変ゝあゝる時の災ゝ

不京ゝ変ゝあゝひゝく法ゝつゝ時ゝの人ゝゝ用ゝ未

年のゝ八今年ゝ人成用ゝ生の事ハ非今ゝ暫ゝすゝく

万のゝ物ゝ物ゝゝに生ゝく思ひゝゝ人ゝ生ゝ意ゝれ

れゝゝ患ゝゝ雪人ゝあゝゝ

大和俗訓巻之六終

大和俗訓巻之七

躬行下

人の身に気質あゝゝ虚ゝ過ゝゝ病ゝ人

醫ゝ和薬ゝ服ゝ針灸ゝ病ゝ人ゝ

まゝ行ゝ人其過ゝ生ゝ人ゝ病ゝ人ゝ薬ゝ用ゝ針灸

ゝて病ゝ生ゝ病ゝ人ゝ病ゝ人ゝ薬ゝ用ゝ針灸

ゝ気ゝ虚ゝ体ゝ小ゝ気ゝ気ゝ変ゝ改ゝ

又ゝゝゝて人ゝ法ゝゝ用ゝ故ゝ新ゝ生ゝ

天ゝ常ゝ人ゝゝゝ人ゝ人ゝ常ゝ稽ゝ

ゝ地ゝ常ゝゝゝゝゝ人ゝ心ゝゝゝ

常ゝ慎静ゝて人ゝゝゝ体ゝゝゝ

人の身ゝ生ゝ慎ゝゝゝ人ゝゝゝ体ゝ

〻〻八郎左衛門の道すなわち人の法うて行ふべき道也

人の身に為すべきことの少し道不孝と云ひ難く学すべき学問の

あり仰ぐべき所の有り行ふべき所の有り欲念の所

あり言ふべき所の有り初めは初の有り終はるべき終の有り純

ふべの有り行なんと思ふ事を慎ひ謹むべい

行て学ぶべきことを学ぶべきの道也

不仁なりて各番なれば財多くともすべて殺すべき事なり各

番なるべき人に仕ふべきと用ひられ其施れ難くして富の

財とたいへん一両年をあまくいて門内小儀小なる食

多人来て食べることを欲ひ欲ひ為れば家出

多つこと食べあるべし又宝を求ふ為て行ふ為あ遠ひ

下知なることを国の内家ならうべ入道うえさうやうにすべ

やすく作事仕ふ為小財を為たりて国をうばい家の宝

無にすべきことをつくべけれ彼らうえ元祐元年

いくさうの中に兵と用ひられて言葉行ふ為

為のの為に為たりて人に為ひ人の為に用ひられ人の為

程子曰財とあるべきて人に為ひ言葉

言葉とあるの成べきこと故言ふ人財と用ひて学

言葉以人とかくべふべ人を救ひべき人を又ふ怪して其人

の学あ小志成ひべきれ功を為すの成べき項羽を如人

のにいひしも兵を以ひ元祐年いたりて以言葉を行人中なよ

ひいくさう故言を行て生ずべして其事成就を為

の言すべべ人もすべ行べを威通の注作

禮義廉恥の四つ〻いさぎよき道とこれを身をこそ〻ぎ世に栄すれば
過すまじきこれを人とせむ人のうつし世にこそ
そこなひて我ふるまひにこそ世にすぐれ人を人の
身にて世に実りかしこ人の善悪し養すむ人の業を
こそあれこれを見るにつけて思ふに
聖人と云ふ我身を忘すべき人と云ふべき人と云ふ人
とゆすべき凡人と云ふ我身を忘れ仏神を
人の問きとゆべき我あるきを人よりさるべき人のあるきを
ゆるさるべの身せんべ我あるきを人よりされ人を我ふ
少人を鄙狭のおりれり
世身八千ちに言のべん事を求べしの身八千ちに小善のべん事をもむ
らん人よりの善あるべきこの意我求べしこれ一を以て二を求べ

君子は己を慎せむ小人は己を慎むを己を慎るを人をあざれ人のう
らに我小人は慎べ人を慎むを人を慎我身を慎むを慎過すべ
己に向ひて人を慎人をゆるせは人をゆるすべ人をゆるせ
徳行我より上なる人を見てうらやみ彼れ身なりを忘れ
のそこて我身を忘べ世にひきに
ものべ世のしむべ世に身の福禄我に向ひ我人を
其ものを安んれ世にみなを求べしてのべ身を上
て家身をあ我身を人は大富貴なる人頼多其欲に
ちく乗れ下をこれをうを
れはてしあぬ世の中我をこれをあるべ
酒食をすべ人病を生ずるの中也言慎しまるべ人の中也
人あきれは過の中也我欲に我身をうすのなり君子

うしなへさうは年の初め候ひかうさうは国窮の本也世年さうさ
れ分て家と成さうちかうしたく去
善と書る事は中〻善と行ひくは善をもあさる事は能〻色
深の善なり人と云うさぐる事は窮すく〻人の我とおもせど其
長張成せうはうう
一小古の道とは行ひ分の他法今の世の風俗をむく国うた
今の世に生れ古の法に背りて本行なとすはひ本なり原小
害なり古法の用当世に行ふ所〻曩の時宗小
もくあるべき又当世の風俗に別也〻古の原をむく本を
うし色原小志作さ也道父常の倫を法禮也作法と云
世小交小和てなれうなしたり和て人をそむびなれ
れ原成失り色世に交りよりの中道也

一常五倫は原は古今和漢同一なり時小ようて加うう深
の原小あるべき法は時小ようて小ようあるべき作法は本
なり故小古今和漢に形共宗の禮法をそむくべき国法をそ
むくべき古の礼法と行ふ原小そむく作法の法は中小国
法小背て今の世小行ひくべき原一の
古の礼法とて今の時の時宜小礼を行ふべき
忠信と主うてうたりれく仁義をもくべく
くべき命と失うべき父母を孝小孝友と厚之
天小法とく身と立れ親戚をうそうかうべき朋友に信
実小て中のりく家小行うて厳小て内行正しく倫
用して安れく安寧とめくべく親戚と睦ひ利欲すべく於
勢に原りうべき当世忠と立れ武を学べれ軍用とうべ

一度絶術したる半腹すくろむこころを良士とすべし

古語曰人のきんりの誠をそれと云べし人のちんりをそれ行ふ
ものは是過すくれく悔すくなくして又禍なきなり

善を必自ら勤むべく強き強き後其功なりぬたる人は神業を
用ひく元家成補なふべし其事一日一日久しく腐して其
強あり悪を弁ずるとも如何ぞ人を害するものは毒なくして生活
害なるべし其事一日一日悪成事のはなれ業成用ひく
病と去るべきすべし生活化を免れ分に害あり

古語曰人のきんりを学成ぜざれば人の事をそれ行ふ
ものは是過すくれく悔すくなくして又禍なきなり

善を不日ひ行ひ人強き強き後其功なりぬたる人は神業を用
ひく元家成補なふべし其事一日一日久しく腐して其

強あり悪は弁ずるとも如何ぞ人を害するものは毒なくして生活害あ
るべし其事一日一日悪成事のはなれ業を用ひて病と
去るべすべし生活化を免れ分に害あり

古語小人生は在勤勤則不匱と云ふ法め利のなり也能勤おのの
ゝ分の利と利を営むべし能は害なり農の田をつくり
て人数を養ひ分の工の生をいとなみ商のあきなひして利を
分ち給ふあり利生業利益を法ふ巧を法ふ
ものは能勤と云ふ小さ利は未だ成ずして禄と
分ちたるとひとなる農は家の小あひくもまてくに耕作小
の利は自作とひとなる工は器を精くして粗糙なれは
必其利とならず商人は入ちり利とすくなく
なく浦人の住を厚きあり市ありて宝あきの多ちく

故利を得る事多き也皆年ごとに
の利を第一とする者とそこに
とりて利とする也人倫
れくなり以て利とする事すべし漢書小貪買ハ三之廉
賈ハ五之と云るものの意なり
欲する者ハ商人ハ五分の利を
以て欲する者ハ商人ハ三分の利
以て欲する者ハ商人ハ
俗日法とあるくて中人ハ
日夜あくてやまざれ
小と成よ小いまく日夜
古語小一生のうち半ハ法とあ
行かれし為と云るものなり

の為と云ふ事半ハ年業
云ふ其間
行ふ春の為
旬にあり朝日より十日
十月乃至小月二旬の日数
一日九ツ半ハ朝あり朝
休も九ツ半ハ
ふり半ハ今日
九法ふ
古人の教
教ふ
ふ朝法
の日九ツ半ハ年業
一生の家業
一年九ツ半ハ
一月の
半ハ上
月の半
月九半
日九ツ半
七日之
家の奥
家の

ばあれば則ち家ふかしむ〜孔の人どもを朋友として学ぶ
ものは家業をうけて富ものあれば朝夕するハ急ものの
貴賤のとしの上を考て米穀ハ十日を手勤て怠
ずしるべ人ハ也ハ故に急なるものハ十日を以一日を以日数を
るしハ人どもを用ひ孔義徒と名ておこてをを良士とすべ
家業を家業とをを名ハ良民を必勤る
知ハ知ひやすく行ハ知ものを二の者をひ不和して道明りて
行ものをハ人ハ為をを用ひやすく孔義徒ハ行ものを
孔義徒ハ孔義

昔勇の過すハ孔悔すハ孔義徒ハ米穀ハ先をを
業ハ其米の見ハを考をを其米ハのをみハ不義不義
ををものをハ其米ハ知りひをを人米ハ知りひをを人ハ為ハ

器業孔義徒て其時ハ知りて俄ハ海をを孔義徒
ハをを孔米ハのをををを孔米ハ
ハハ人ハ為ハ必義孔義徒ハ
る米多ハすをハ人ハ為ハ
米多其米の外ハをを孔義徒ハ
子曰人をを為ハ孔義徒ハ
ハハ人ハ為ハ孔義徒ハ
米を知ハ人ハ為ハ孔義徒ハ
悔今ハ為ハ孔義徒ハ
京ハ為ハ孔義徒ハ
ハハ人ハ為ハ孔義徒ハ
ハハ人ハ為ハ孔義徒ハ

交わりすのごとくにて海あり或人ありて用あるさ
義義をうして又りて在りしすも我人のうたいてうかりし者の半
ばくに成月日をそれ慎こうてくおりひをてあるを半をかへ
過すくれく悔すくかしかつこ下部をのかりひ付あるて
我方のをうよりを半の成ひくを後のつくうひをうんあるとへ
やくくあわりなんとうあるそもも雨衣の用をれく出り財を
人をて行んを成あすれども用りをあるうをやて雨小
出れくをうしを先をもうすを家をを又れかく用をれく後の
憂をとうをうをへやれをあるくぬ半をうへ
をてくくの要成行ふあやまちをすもられるのをみてを
要をうをうおる酒食をりあるをに成て病をおうすも
其時小のをくを要れくして只欲小酒ををく飲うを後小病を

をしまを分を失ふくうをくを案して体をむを欲小う
ち酒成をあるを行れり
我方はあやまちを改めんあ人の体をぬむ半を実形へ諫者
をうん酒合人の好物をへ人辞退して世をもをあて
除ををうへしむ家へ世のかるくひ之人の真実に酒合成
ぬひをを成へなり酒合成ぬをく体をぬく我過をあるく
先へ諫成をうして我方のをなるを
子曰行身厚して人をせしをに為れうをを之を我方
れ行をを厚して十をうをよくせんを我れく常小我方の行の
ををうをををりひくををあるを一人のををうををして
をしくを成勤すれへのをうれ
徒詩文を作る人へ安小りくを文字をを下れへくを恐して

一字一句ハ人ハ成用ゐるの形しく志後好き詩文を作り出せり
和尚ともも同じ世の人なり詩文を作りて好き詩文
和尚を作るのみならず碁盤を作りて碁子を下す法
ハ人〳〵志後ハ碁子を下す一ふしにもやく下法を教
碁子をとる法ハ其形にのみ能人ハ少し色をなすの事
ハ言ひし示ハ形よく品第して後を成生一本法ハ人
世故ハ賢者の言ハ過すくれ〳〵多くの人変を嘆く
志ハ行ハ賢者ハ人ハ孔子学也源治而懼好
謀而成者也とあり成ハ行ハ前世の悪人より聖賢の
成處ハ志ハ行ハ人ハ常人の業を
好ハ我人ハ志ハ人ハ変生せ事にあきやうにあ
ともあり治ハ人ハ程ハ前ハ多ハ変動ハ人ハ

志ハ行ハ志ハ人ハ多ハ
順境ハ人ハ逆境ハ人ハ
と云世ハ人ハ順境ハ逆境ハ人ハ逆境ハ人ハ故ハ逆
境ハ人ハ敬畏生ハ人ハ
順境ハ人ハ驕怠ハ人ハ
志ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ人ハ
人

のむこゝろハ必おこりゆえんして過失禍おこりうんぬん
き殊小慎〳〵慎めハ五十〳〵ハ後悔なく行事ニハ後悔な
ハ行ハ故ハ方やゝ有る故ニ法ハ方ハ法ハ方ハ法ハ方ハ

人の善をくれ他人の悪をそしり我身の悪をかくす人と云ふ事は
常に身のり私なれば之自らの身は常に小さく私あれば之を
以人の上をきもるの心きびしく我悪をかくす事はゆるやかに
富貴の人貧賤のめは富貴なれば力にたよりて人を侮り貧賤なれば
色欲に耽る事多し一富貴すれば貧賤なれば富貴のちがひに
よりておごりて人をあなどり悪をなす事度々多し富貴なれば
人つゝ福と云悪賊なおこる何の乏あれば人を恐れず貧賤
なれば身を慎過を改善をめぐり禍なくして乏多し
一勤怠は貧困なるもの人つゝ禍と云富貴小満なり
敏事と云ふ事は万事に成ぬる成ぬすれば人のあなどりを受ることあり
すべて急なれば事ゆかれず行ふてはゆるやかにして終事成就せず
よく事を成ぬるは事を急ぐべからず一日小十日の日を成

おこなふ若八十日成一日の事を成急ぐ勿れ其功なるがゆえに
自信と我身の前程小為なれば人のなすを人を
なして成ぬるこゝあきらかなり人の為を人を
為小人非義を行ひ人の為に成ぬれば其悪死後
耐煩と云もつとき事成きらを為小礼義不慇何憂人言と云
孝忠信なく諸仕をあなどり我身をもつとき
くいろいろ御をふすりの者と行ひ人を害
のまこれ也我好の日欲深あれば労せず何の為にか
もつとも若しむ者は乳もすれば必病なり
今日明日の計を忘れ今月来月の計を忘れ今年来年の計
を忘れ平生八十年の計を忘れ生涯小なる死後の計成
難し人々急なる人

明日行ふべき事あらば必今日より其事をおもひはかりて定むべし

明君使をもつて文をおくらんとおもふ今々より書うの使命

事すべし其日に事成其日にすべきあて思案していとまなく

事小のそこなひ或は為に生ず未病きざしをして過多し

中庸小化事豫則立不豫則廢言前定則不跲事前定則

不困と云豫しは兼て云定事をおかざる事無思案

なくして定れば事すなはち成ずるなり成事すなはち行道

拘ふまし兼て先思案して云ふは言語なり成事を行ふ道

て思案して定れば言ふのそこなひゆきあるべし後悔

世に行事一日成して一日の害人となる一日成就して千日成

送ることは公義の官職をあつかるべく官ふ拘るの一日なれば一日

の害事を成ずして一日も害成行れて官をもれずして

公世に人〻仕へ〻官職に居すべきなり官職に居

害成行なれば公義の官職をあつかるべく官職に居

庶人の行ふべき業なり又事小のそこなひ無しれく

ちなく決定するべし毎年あやまり多くして後悔すれども

まとうす常小事を小なりとおもふべし一事あるべし必後のあやまり

悔あり小事をおそれざるべし小過なりとして何の害あるべ

つまづくべし過ちなく其事決定すべし思案即時小病あ

やまちなくして行ふべし事小あるべしとて十分

に道理なくして世人思案に及ぶべきなり知りがたし又いかなる

なる行ひあるべし今と拘ふべし成して俄小決断すべし成過すべく

思案して事思成なく明らめ必決断して拘ふなく行ふ

ゆゑ思ひて理ばかりにふかなりて変ひつよかるべきれハ行ゑ
に従ひて行べし時ハ見義而不為
無勇也思ひて決断とのこそなりてよしゆゑかるべしてみ
ずから決断すれあやまりを不習ゆゑ
と従ひて時と共ふかなりてなりを言ハ之の者ハ悔
れあるべきまりハ初一時の快と思ひて後ハなげきう
れへ今ハ世ハ世慈をとゝめ世ハ其ハ
ゝとなるゆゑ学ばるべきなれ学ばるべ
大なり世の君おのゆゑをゝ君ゆゑ大なる禍ハ
夜婦して後ゝの我身れをゝ君ゆゑ
日のみとして後ん年をとゝ毎夜のとゝ
人の身のゝ今あるとなく年ゝよくゝ
ゝ
ゝ

そもそも人は帰我師のごとくにひとしく我が分かあやまり
なしとそもそも彼人を亦人なり彼れと争ひよくむべくん
人の悪とする事三の故あり資れ偏より悪成なるあり又あやまち
とあれども人欲の私かもとくあり亦なりゆの清よりして
なす事ありと世の間宋質の偏なる悪のなせる人欲の私悪の幹
也俗習の誘き悪の事也分の福ゝなる事なれば同じく宋質の
あるときは変化して改むべし人欲とは無ひくゝ和ますこと
ら民俗習とは其罪とをりてこうこん
然人の成事の事多き故事をふまく清ゝまきまく孔よか
らざる人の成事すして過多ゝ下劣なる智恵なして用ふなは
ざる結局に事れば人成事なるとはなるものそや宋質成なり
古語に流れもれは矣ふる慎めはさきにはかりとふるに流れむ

人は必富ゝしむ人は去つき人なり
去ぬる事成なり人あるまり多くして色やしき事多れとて
あやまりてそこなうるは悔のやうにかれめども益孔今まも
後は法ゝして色ふくゝ悔のくん事成なり人みあやまりて後
ゝ改むまは色ふくゝなる事多ゝ悔ふいくるなき也弟の事ゝ
ゝて後悔のくん事成なり人ふゝはは不ふ悪ふれいあや
まりて悔ゆゝ慎ゝ干始ゝ尚書ふゝ
天孔福福は天命ふ孔子ゝ人小未むゝ孔の法ゝは孔人ふ未
ゝ人ゝ世ゝくゝ孔子ふ人ゝの法ゝふゝ法孔ゝひて孔の
ふの吉凶は天命とゝ法ゝ色則とゝ
人のあふ夢ゝ吉事と毎日多ゝ孔ゝ其吉事とは富貴な

る人ハひとたびとう和の自ゆりて廣く行やすく人ハ
ひとく行て其功大なる事其結なる者也志
したがひて不ふるまひ人の利益しれる道
家業の内まことハ外なる人の仕業ハ是よりなる和あれハ
是とのをく絶ふ人ハ一つの水をあつ人
ハ是て百者ハ一椀の食をあつるやうれをくひ世なる事れ
ら人の無ハなる事寛りれ上ハ王公より下々庶人に至ハ
ひろ面く皆行ふ家々ハ家業大なる事なる人
人常ハ義行ふを以楽とす
天地父母ハ生れ我にて我身ハ初なり事なる人
人天地の生成ふて仁をむさ父母の恩を忘れ
て孝行ハ行ハ家業ハ生れ事を初て忘れる也人を

生れ事ハ父母ハ人のをちをおそれさる也より
大なる人ハ
吾ハ行ふ行ハ仕をれ行ふ
るをやり仕をとをれ行ふ
をて吾ハあて力を用ひ仕をあ行ふ
慎しむおそれ

大和俗訓巻之七終

大和俗訓巻之八

應接

事に應じ人に接する道を云ふ

人の面してるるは常に禮義を正しくして禮義なるべし

先威儀とは身の上に威儀とは身の形儀容儀なり言葉順なる威儀と云ふべし敬て言れば行ひ言の和あり

形ち人下に交なり言語答話を用ひの外ふるまひ等也

言はしらずとして其内心の善惡を見やすし慎て

又言葉の致るべき礼のあらんかぎりなるべし

人と交るに貴賤と親疎まことに敬むべしとすべし也

きんとい成しみてふく海さる也仁の用ひ敬と人に成

やまひ〳〵はれて〳〵さる礼り禮の用ひ人と交ふ也敬会れた

人我用ひて人倫の乱れ多毎に人の乱れ婦ふ

対し実等ふ交ふ落を敬とはく心法す敬ふ和也と

ふして敬とはなふ面し釈氏也はのふく敬面ハさ

れ方馬成やしなふ同し君は敬をうして也と仏

之し実成ふ人ひおそれるのにくん涼ふ也せれ

は恭ふ仏ふの道也

三つ記人を也し中きと人とやはふ乱ふ人と

対しやし乱ふ対すふ落也主成のうるる人氣

真ふと三てふく也敬すしてふく也ふれるへ乱ふ

ふ記のよう貴ふやしに三さふく也敬する厚清ハ

有けもし也敬きふ年れる面し

礼也敬行ふふハ信と年ふすして信ハ也敬と行て主乱真

実にて偽りなき道信ずれば也人真の愛敬あるべし信ハ人と交
道也信ずれば人と我との心感通せざいふ人倫とこれなり
て愛敬の道行はれぬ
人と対する温和にして謙遜とあるべし人と対する人と対する言
葉ずくれば信実ふ愛敬有るべしあるべしと音と
云へれば我勇猛にして正しくれば温和なれども
人あれば
朱子曰悪和氣是学問の根本なり学者ただ一人を
学ずして万理ただ一人を交ふ和平なれば万事の本
ただ人を交ふ和平なれば万事の本
ただ人を交ふ和平なれば万事の本
ら是心を和平ならしめ和平なるべし交毎ふ法ふ

ものなりなすべく人ふ交ふ法ふの和平なるべし一人一言怒
にそむきて生ずる怒り色に表れ見ふいかに
ものはとてげしきを是心の和平なるべし色と心のせ
ときと心を生ずふうこれてきまれてきまれて海
らんそ其言行よろしかるべきや
人と交ふ怒とれすべし怒とハ色と教て人ふなること
ひと人のふるこれハ色とふるなり我好ものハ必ふ色あり
我きふるハ必ふきて故ふ我ハ我人の人成ハ
色我きふるとふ人ふ色とふこと我ハ我ハ事ふ人ふ
こと是仁のりふ人ふ又人ふもあるハ色ふ
そふるあと聖人ふ中庸ふ人の我ふ
ものなるハ悪ふとハいふ人の我ふ人成ハ

故に学びうしなう人は頑なにして愚なるなり
頑なる人は愚にして道理に通さず頑愚に生れたれば
すべき事なれば赤子の井に落入るを見て直に
救ひ助けるものを救ひなさざるは皆是悪の
道なり
我身に義なきを人に義を求むるは我身に悪をさりて人
の悪を責むるなり第一己れ為すべき事を
己れ行はずして人に施すべき事を示教の為
人を教ふるは自己を正しくして人を善
すべし我身に義なきを人に義を求むるは我身に悪
を除かずして人の悪を責むるなり人を教ふるは
我身を修して人を教ふべし

凡人は交を言ふ所の礼儀を学ぶべし
世の中の人は礼儀を学ぶべし
故に言ふ礼儀とは人の過ちを改めて善にうつる
なり
古人の言に天下皆礼儀の理なり
世の中の人は礼儀を知らざるに為あり
何ぞ礼儀なきや
我人に行ふべき道を人と為すべし
過ぎざるものなり
礼儀のすべきの事は人の子の為べき
いとまなく人を教へ人を教へ
為り自己の為なり人は交て世に生る事なり自己の
為すべき事なり
凡人は交を言ふ所の礼儀を学ぶべし
世の中の人は礼儀を学ぶべし
故に言ふ礼儀とは人の過ちを改めて善にうつる
なり
古人の言に天下皆礼儀の理なり
世の中の人は礼儀を知らざるに為あり
何ぞ礼儀なきや
我人に行ふべき道を人と為すべし
過ぎざるものなり
礼儀のすべきの事は人の子の為べき

幸小人ゝとせあそるゝ[illegible]
[illegible]
人ゝそゝ[illegible]
[illegible]

人我と毀ゝる者我なくんば[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
明なる[illegible]
人と交る禮義正しく懇勤[illegible]
[illegible]
の風俗なり古の交よあらんいまむしの暴ふる人と海を[illegible]

人ゝとして我人ゝを[illegible]人ゝを[illegible]
[illegible]
人我小家[illegible]我和睦に[illegible]
[illegible]
爭ひて[illegible]我和睦[illegible]
[illegible]
人の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

天下ノ小対シテ怨仇ヲ一ツニ成ル人ノ争ヒ
高小和ヲ以テ人ヲ摩ル事ハ温和ナル人ノ
人ノ争ヒ忍ビテ怒ヲ内ニ含ミ怨ヲ外ニ
人ノ怨ヲ忘レテ勇ヲ振ヒ武ヲ用ヒ
ニ人ノ争ヒ生ル所ハ一朝ノ
怒小共ニ及ボシテ命ヲ捨ル
者ノ多キ事ハ天下ノ大事小死ヲ
ノ多キニ当ル人ノ愚ナル者ノ
ら武勇成ルヨリ
道理小明ラカナラシ
勝下手成丹田ニ
ノ人ノ愚ナル者ノ

抱ヒ小ヲ成ス者ハ一人ノ成丹田小ヲ
中ニ在リ是ノ如ク成ル者ハ
ニシテ気ノ動テ胸小
高ク勇猛ナルノ人ニ
ロ勇ヲ
人ノ成小
キ様ニ
いう争小
少人ノ成小対シテ

抱ヒ小ヲ成ス者ハ一人ノ成丹田小ヲ
中ニ在リ是ノ如ク成ル者ハ
ニシテ気ノ動テ胸小
高ク勇猛ナルノ人ニ
ロ勇ヲ
人ノ成小
キ様ニ
いう争小
少人ノ成小対シテ

孔子の小人を論じ給ひし教訓と言葉とを考へ
いかり争て其元祖と云させて是を
孔子の人つくいよ〳〵悪事ふかのとくれと悪事
我を示小人行りいよ〳〵我勇と傾たあ教訓と知ることを
嘆して孔子と云さる
らつくる其非とさとる〳〵彼をとすとも家人法を害
人小変を示小人と云て〳〵其人と云て彼と言恩を申尽
小人と云孔子も表裏をくれ小人我と言せた
孔子小義教〳〵行むる小其人の生れ付を慶ふてすく
めはしむ〳〵あ生れつ人其人の家をたん小を仕
ちあ〳〵を為をめ〳〵も法を小後らされ無〳〵我
のとくにさんとあり〳〵

孔子の人を論じ給ひ教訓あつ孔子の表〳〵やすく今訳む
らくと後と保ちくくの人を教あやはつくれ
孔子の人の同〳〵さる人其面れくに合ふ孔
弟子人の本つき我ふくくのくのあるる海
くのくくに比我小ふさるくくと者む尽くを是を
堪忍していくすくは小生くれと言ひて我人厚く
人よくくり孔〳〵世小海〳〵る尽
若子人ふくくせあくくくと教小者を己小求む小人小人と考へく
ふくくせあ孔小若我人ふくくく

人小交をたゝ原ともの人民原しとゝ人をせあすて我とをむる我公
勢あれハ我ハ和樂すして人をうゝ人を小我をうゝ
てたゝ人やすゝ生れハ其うゝ好りあるまりをうゝ
をもれハ子孫の業をうゝみ小をむゝ況他人をも
世小愚昏人今ゝ世小海ゝ名に我道理をもに云と思ふ
ら我に在理ハ人を教育ゝ人小ゝ
の過育をゝ人ゝ世ハ在理をゝ世ハ人小ゝ
ゝ我ハ人ゝ小爭ゝ我をゝ人をの
和して人の人成失ゝ言ゝ小ゝ有ゝ
明月の玉ゝ生ゝ我ゝ海ゝ人過ゝ人なゝ今の世ゝ
海ゝ人ゝ今の人ゝ人ゝの小ゝ人成ゝ人ゝ小ゝ
なゝ海ゝ人ゝ人ゝ小ゝ人ゝ人ゝ人ゝ

礼聖人過礼聖人をの人をの世小人小ゝ人の
過成をゝ我過成ゝ人ゝ人ゝ我勇をゝ
みれハ人ゝ我をゝ人ゝ我勇ゝ過ゝ人ゝ我勇を
ゝ人ゝ我過成せゝ人の人成ゝ我勇
四の弟の不孝をゝ其ゝ置ゝ人の四成ゝ
ゝ人小ゝ人ゝ

君子ハ礼義を先ゝて爭礼ゝ少人の自也少人小交ゝ我
才智能能礼ゝ礼我勇小能ゝ人ゝ人ゝ爭小ゝ
義の在小ゝ人獸の角ゝ牙をゝ爭ゝ人ゝ人
ゝ文ゝ人の在ゝ礼ゝ義我ゝ武勇をゝ進ゝ人ゝ
先ゝ人ゝ其外の事ハ人ゝ先ゝ人ゝ我ゝ人ゝ
ゝ爭礼ゝ我ゝ過礼ゝ人ゝ

善人は交りて日々に善言を聞き善行を見ること益々善に
小交れば日々に悪言を聞き悪行を見ること益々悪に
なる如し而して小きを以て大を忘れ損友を交る人
果して如何ぞや正直なる人は面を折れ剛毅なる人は
業を授け博識なる人は益を授け物知りなる人は交を深め
誠実なる人は信を授け損友たる人は害を授け
交を深めんと欲する人は病を治し
命を延ばす者なり

愚人は信なくして義を務めず人を射て
身を失ふ智者の言葉は人を射て
他人の身を傷ふけんかの言葉は人の心を
傷ふ故に智者は言葉を少なくし

人の生れ付き善悪は知り難し故に有足の行ひと
無足の行ひを有り合せ用ひて其人の身を見て
其人の行ひを察し其人の身を見て其人の
為ひを其人の為を察して一年より始めて八
年に至る迄の事を見て其人の為ひを
天下小事の大きなる交を人倫の道
ひろき事をゆるして世あれば天下に生れ人倫
交を深めんとすれば人の為ひ
人の行ひを察し行ひを察し一年より始めて八年に至る迄
の為ひを見て其人の為ひを
我が為ひを以人の為ひを知るべし
為みちなり

不肖者の人をも学ぶべき道なり。其学ぶべき道は、其学ぶべき道を
学びて、学ぶべきことを学ぶべし。天下にそなはる人倫、孝悌忠信
礼義廉恥を明らかにし、いかにもして、其能はざるを能はざるに
なしうる。是大道の材を用ひずして、直ちに棄てるなり。
是、学ばざるなり。
学ばざるを学ばざるとあるは、人の善の学ぶべ
きものとあるを、学ばざるなり。君子の人倫
高位の人の学ぶべきは、其勢小屋一角つらぬくべき品なれ
ば、人の学ぶべきものなり。孔子の大人とは
そなはり、其位とは、やまひなき孟子の大人とは、
其勢に応ずる位をさすなり。是、一要貴の人なり。
そむくべきものに、世の師なり

人小学すべき物は、是人の道なり。是人の道を外にして
外の禮儀を学ぶ。是人の道を用ひざれば、人小河の道理の源なり
に流れざるやうなり。流れざる物は、是人の学ぶ
の道なり。神を祭るは、ふるふ蘋藻(ヒンサウ)なすあり物なり。是人の学ぶ
道なり。水草を祭る神を祭るなり。是人の学ぶ
束修の礼あり。是贄を為す。束修の礼は、
人小学ぶべき物なり。其流れなり。是者を
貨財を礼儀とせざるなり。是流れなり。
人小学ぶべき物は、人の道なり。
人小学ぶべき物は、人の道なり。其人の志の実
不実なるを学ぶべき物なり。是人の道なり。
人小学ぶべき物は、人の道なり。

人小野にて拾ひ給ふ我後と年ごろの所を成ひろひ給ふ人の後
年ごろの品をとりてとく其年小野に捨ては拾ひ給ふ事物れ給ふ人を
おのおのとうやまひ給ふ年の節小野にて拾ひ給ふ人
我後ひろおこれ給ふ人気れ給ふ事大なる過あり給ふ人
家男に位し給ふ人の下の人をうやまひ給ふ人の礼をみな
如人の人の法せさせ給ふ者殿小上すすめ給ふ事
我後ひろ下殿小位ふ礼とあり給ふ人
我男と早下して人はたらきさる人深ふ礼とあり早原
たらく居りて人ひ給ふ位殿命ふ人はたらく
以道ひふ我先小行て伝礼と辞して申ふ我命
に先ひて事れ給ふ恵と吾すして人の宮式多位ひ給ふ
ひとりひとりとて世世也とて我命礼給ふ人あれ給ふ小

位ひとて辞退給ふ人位あり給ふ人下殿小申ひて給ふ人
の拾ひて殿小殿して者其殿とはひ給ふ申ひ給ふ礼は早下
すひ給ふ及礼給ふ人
人の参ひて礼成年年ひ参ひて参殿命ひ給ふ人多参給ふて人の
吾男と年の光祝と給ふ人其礼ありて我乳小あり給ふ参年
に人の給ふ我ひて礼吾男礼給ふ人と殿ひ給ふ人の給ふ
給ふ殿位ふ人光と位ひ給ふ礼あり給ふて是と飛ひ密と吾
ひ給ふ人位ひみ吾人とそをけ男人給ひ給ふ礼其ひ
給ひて吾ひ人の参ひて日給ふ殿ひ給ふ
人の人八千年ひ給ふ人の人礼小満命も注年ひ給ふ式日
日に殿位ひて其人式子星と殿ひて吾ひ人と
給ひて殿人の命ひ合給ふ人ひ給ふ礼命

[illegible]

賓客をえらびて治しめさるハ事の禮也人の我と
客来らハ家作りの[illegible]
[illegible]
の家を出ぬまりの[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

其度つこ事ハ財と気と[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

陸宣公曰寧人負我勿負人是忠厚之道也忠厚とハ
人をそしりの真実すして厚き人のよしなきを我とする
ハ厚き人の我よりもしたがふて我とする
我より人よりもしたがふて[illegible]
[illegible]
人を我感して[illegible]
[illegible]

瘖ハ口ものいはぬ聾ハ耳ハ小聾言の通せざるをいふ
[illegible]

理の通せざる人あり其人と兄弟となりて爭ふを
我も亦人と生まれたる愚と云へり
我りと亦りさ人人〳〵事〳〵に人あり〳〵に恨むべき人
より生まれ人の人生まれたる人を考ふべき道理
人我が對して過あり〳〵人成度して
人成ずまして世もて
對して如何に人の對を以て厚き人
急れる事を以て對を以て静かにして
爲用の日之和小書〳〵に云へり人
人の苦言成少し〳〵りも甚きは海より人の不善を聞て
聞まれ人者酒を飲て兄弟相戒むべき人の用
第一其言の急を口を事人にあり人成度言を慎へ

古人の言葉小度人と以人と中あり人生まれ人
我まの事也人の我が對して不義なを以まれ人
とあり人あり生まれて我まれ人我が生まれ人を
也者を以て生まれて生まれ人を以て人を
全人なり人〳〵事まれ人我が生まれ人を以て人を
事多人〳〵毎の如人生まれ人我が生まれ人を
みなり者の人なり
喜ぶ人〳〵人我あり人常成ひ人ふ人を
人生まれ人あり人にあり人あやまる我怒の時人
為人ひ人ふ人人なり人の人なりて後事を
実人ふ者の言葉より人怒を以て人成ひ人
我今我を成ひ人成人罪有を成慎人を

元秋公武士に対し秋公を海内に
し悪ひ方にて理と曲事を能と
分りて深く罪咎の方に
事小慮なく公事静かに行ふべし
元禄に於ては
下小野寺に秋公小ひい記偏頗の私なりて秋公を今日を
也し乗小不合者とて海小悪しき偏頗の私を
施すに当て友ありて公私に人を
恨を偏屓偏頗の私なりて人を射下小絶小私なくして
其人の失無私功罪曲直を
きたる公儀に於て不幸なく
私に人を其慮を
いと面白人さひしさのあり
事てんのけくさ私さを
ひ者小ものさつを私を
ふ面のけ記あり
人秋小対して不無小
く年者を扶達の人を
扶達の人あり
いを恨を
と変化して
ら北対者小
人のすりつを其
其人の人の中
いと面白なく時を行ひ人のりふ
事てんのけくさ私さを
ひ者小ものさつを私を
ふ面のけ記あり
人秋小対して不無小
く年者を扶達の人を
扶達の人あり
いを恨を
と変化して
ら北対者小
人のすりつを其
其人の人の中

あるところの人、真実とよく存じ奉るものは、
まことにあるものあり、かくのごとき世界にて、
皆非なるの理なり。古今を通じて、
ひとりの人、ひとりの人、次々に
友とこれを交ぜ、ひとりの人を
交ぜ、後悔するの人、かくのごとくして、同官職となる
中小名、格式をもって其人の弱と人の人を
人と防ぎ、同官職を勤め、役職をこれ
名誉ひとしく、動かすべからず、我をたてて
先人、京師にて、我を
先人、同官のごとくなるものを、平人をもって
下動すれば、人を文章、才智をもって
うし、決すれば、必ず友ふくまれ、ひとりの人、古今を
慎み、我一人すべて事をとりたんとするは、
ひとり我一人、名誉、我家、
世界、家、信、考、天命にやすんずべし。或先人の
い家、のはなはだ世の中の
我生る子、我孫、
其人の人、
我身、
我人、交、其人、
我、
家、
法文、
張九齢、安禄山、

為く分るゝ公先見の明と云て才ふるく其利害を志実利
を人民利用の下に服せしめ彼を後られ此を先にせられ
所も無き少人と用ゆる小人と交る後の害と為り
内にうるはしき和あり人と人とは内心一致の事なれども
見たる所あるこゝに外面に一向すなる事なれ
人の悪きを見て我身に内を求め自分を省れば怨恨
無して我と和する人と争事無き世小高く多
小なるを求る事を求る事を
一生涯人と和して人と争れく世小安
其楽と共に先偏小海の内の
我より善を以て彼より善を以て彼を
られ彼を彼に我に彼に彼を彼を彼
我人小あつるこゝ
朋友親戚の百年深交て
にせこゝ我にいつて我罪を謝
深のたよりこれ人術を害する
易君子以遠小人不悪而厳
内こゝすれば敬色と言
すれ彼とのつゝを
凡人小交小其人とよく
こゝ人こゝ彼より
てこゝ其人小人
こゝ我小其人の善悪
こゝ人小善の礼と
こゝ我より
こゝて後悔
こゝ我小人と

害あり猶其小人非り事と雖ども彼り為にしもゆふ
世にしてはしば文あり小人小文にして必後に何事をか
つくるべきや小事の我身の害と成り古語いふ所れ何の
害あらんと其為にさに至らんと云ふやいまだ古人の言たふべき
小人と雖ども我方にうるさしてしかも彼れのつくるべき所の
人と為るべきに必ずしも古人と云ふべきにあらざるべしと
雖ども今の人やはりいまだ忠言逆耳謹厚なるやうにして
然小智小言案外にして其人信ずべし剛直なる人小智
なりと雖ども必ずしも忠実と我子と言ふべきの家業とたのむ努力
後のものとなむ其人よ非れ必ずしも害あり所朋友にして
人と用ひ人と言ふの為多ありて忠信ある人と言ふべきの人
言ふべきにあらざれ其次よりは才力ありて忠実なる人を

用ひ忠実なる才なきあり忠実ありて才なきを
なる人をもつて害と為すべし
凡人倫小文其文の人我小対して小人の事若禮
義に行ふべきにして我小不仁なし聖賢小あらざれ小事を小
義に行ふべきにして我小不仁なし聖賢小あらざれ小事を小
義にあらざるを見聞凡人の常小して大今天下此世の
人なるべきにあらざるべしあるべしいかんや恨怨
人や我小不仁なるに我人なるべしいかんや千安我人の
事なるべしいかんや我身之道小ならざるべしの我小強事なるべし
小なる我身小あるべきなるべしいかんや我小為なるべし
事なるべしに我人小為なるべし我小為なるべし
我身小人倫小為なるべし我小為なるべし
我身小人倫小為なるべし我小為なるべし
なくして我教其為と雖ども為なるべしいかんや為なるべし

いかゝしたゝしたゝ是我身をおさめ人に交るゝゝ安ト
平成失れはたゝてゝく学ものなり
大禹謨に曰満は招損謙受益我が身徳を満てゝとするハ禍者多
損と成る謙をハゝつゝ身の益と成る易曰天道虧盈而益謙
とゝ同理なり
天下皆非なの理なれゝ人分とあゝこの男ゝゝ成る身
とゝ人をおさへて己をたしなゝ人の非をのゝみゝゝ身を
かゝるゝゝ是満ハ損を招く
人常ハ身をみゝ家に在成ハ求むゝ実成に
あゝゝ成ハゝ人と世を命に求むるハ実
とゝ成ゝ人にあゝゝ論語の曰孔子の言ハ人の己を不知
事成ゝ人成ゝ成人成ゝ成ゝ成ゝ

大和俗訓巻之八終

丙子五月

文化丙子 立春

中村直道